

知事が県内各地に出掛け、三重を舞台に活躍している『若者』を紹介します。

三重の
**若者の
チカラ**

知事が行く! 突撃取材! 2 パート



誰もが分かる、知っている “ヘルプマーク”をめざして

株式会社オアシス 代表 ごさき まりえ 小崎 麻莉絵さん

ヘルプマークとは?

義足や人工関節を使用している方、内部障がいや難病の方など、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方が、周囲の方にそのことを知らせるマークです。県では、緊急時や災害時に必要な対処法を周囲に伝えられるヘルプカードを配布しています。



四日市市内で開催された講演会で

知事：今日は講演お疲れさまでした。

小崎：ありがとうございました。

知事：涙ぐんでいる方もおられて、皆さん感動されてましたね。

小崎：自分が一番、泣きましたね。

知事：小崎さんの講演に参加いただいた方の感想をお聞きしたら、やっぱり自分自身も行動を起こして、思いやりのある町にしていきたいと話されていました。今日の講演を聞いてアクションにつなげていただきたいですね。

小崎：はい、行動につなげていただければありがたいです。

知事：それでは小崎さんにお聞きします。ヘルプマークの普及活動を始めて助けられたことは何ですか。

小崎：カバンにつけて歩いていると、高齢の方がマークをじっと見て、頑張れよと言ってくださることがあります。また、先日は優先座席に座っていたところ、隣の男性が私の代わりに、高齢の方に席を譲ってくれました。そういう一つひとつの出来事が、すごくありがたいですね。

知事：その方々は、ヘルプマークのことをご存じだったんですかね。

小崎：ご存じかどうかは分からないのですが、裏面に書いている私の症状や「申し訳ありませんが、病気のため席をお譲りすることができません」というメッセージを読んでくださったのだと思います。

知事：周りで見えていた人は、なぜ男性の方が席を譲ったのだらうと思うかもしれませんが、このマークが見えると「あ、そういうことか」と気付くかもしれませんね。そのような出来事を見聞きする方が増え、ヘルプマークが口コミで広がっていけばいいですね。



小崎さんの講演会で一緒にヘルプマークの紹介を行いました

小崎：そうですね。

知事：では、ヘルプマークやカードを見かけたら、どのように声をかけてほしいと思いますか。

小崎：やっぱり、席を譲りましょうと言っていただけると、とてもうれしいです。また、困っていることがあったら、いつでも声をかけてねと言っていただけると、すごくありがたいです。

知事：なるほど。その時は何も頼ることはなくても、そのように言ってもらえると安心ですね。

小崎：はい。

知事：もしもの時にも頼りになるヘルプカードですが、持つのをどうしようかと思う人もいらっしゃるかもしれませんね。

小崎：そうですね。このカードを持つかどうかは、ご本人次第ですが、万一の時にヘルプカードに記載された病気の情報が救急隊員に伝わると対応がしやすいので、お守り代わりに持っていただけたらと思っています。

知事：そうですね。地震や風水害など、日本は災害の多い国ですから、お守り代わりに持っておいいただくことは大事ですね。

小崎：はい。

知事：ヘルプカードをより多くの方に知っていただくために、県民の方をお願いしたいことはありますか。

小崎：ヘルプカードは、ハンディキャップがない方に知っていただいてこそ、初めて役に立つものです。ぜひ家族や友人、周りの方に伝えていただきたいと思います。

知事：小崎さんが普及啓発の活動を始めた頃と、現在とでは手応えは違うと思われませんか。

小崎：そうですね。先日タクシーの運転手さんに、「いつもヘルプマークを付けているんですね」と言われました。

知事：その運転手さんは、報道などで小崎さんのことを知っていて声かけてくれたんですね。

小崎：はい。ありがたいことです。

知事：周りで応援してくださる方の輪も広がっているようですね。

小崎：一緒に活動をしてくださる方も徐々に増えています。最近は小学生のお子さんも手伝ってくれてい



料亭旅館 大正館（四日市市）での啓発講演の様子



小崎さんの活動を応援する四日市西ライオンズクラブの皆さんにもお会いしました。



聴講者の方に講演の感想を聞くと「自分も行動をおこして思いやりのある町にしたい」と話していただきました。

ます。

知事：子どもたちが活動を始めると、大人の意識も変わってきますからね。

小崎：この前は、小学生のお子さんが自分の学校の校長先生にヘルプマークの活動を広げるように頼んでくると言ってくれました。

知事：それは、うれしいですね。きっと、その子は思いやりのある大人になるでしょうね。そのような子が増えて、次世代によい影響を与えてほしいですね。

小崎：本当にありがたいなと思います。

知事：ありがとうございます。我々も一緒に頑張っていきますので、よろしくお願いします。

小崎：よろしくお願いします。ありがとうございました。



駅でのヘルプマーク街頭啓発の様子



普及に向け身近な人に広めていくことが大事だとお話しいただきました。



三重で働く女性の挑戦を称える「チャレンジャーズ・アワード2017」ではファイナリストに選定され、働く女性のロールモデルとしても活躍中です。



(公社)三重県バス協会に協力いただき、県内の路線バスに啓発ステッカーを貼っていただいています。



小崎さんの講演会終了後、参加された皆さんと記念撮影をしました。



※インタビューの内容は、読みやすさの観点から一部要約等を行っています。

※記載内容、写真の無断転載を禁じます。

※内容に関するご意見・お問い合わせは、三重県戦略企画部広聴広報課まで

〒514-8570三重県津市広明町13

☎ 059・224・2788

FAX 059・224・2032

E-mail koho@pref.mie.jp